一般質問

○ 高久田・一貫線の進捗、費用対効果はどうなっているか
○ 久来石交差点の改善と久来石区内の拡幅は何時頃か
○ イノシシの被害対策は
○ 子ども育成会への中学生の入会をどうするのか
○ 鳥見山陸上競技場内トラックの張替、北門・南門の改修は



橋本喜一議員

質　問　高久田・一貫線のその後の進捗状況に変化はあったのか。

都市建設課長　地権者からの同意が得られないため、東部環状線への接続を含め、計画ルートを須賀川市と協議を重ねています。

質　問　その後の進捗状況はどうなっているのか。また、投資効果がゼロに近いと思うが、現状はどうか。

町　長　須賀川市の地権者1名から同意が得られていません。現在の道路を延長することを須賀川市と話し合っています。また、7～8億円の投資をしてきましたが、開通していないので、ゼロに近い効果であります。

質　問　久来石交差点について、国から町への説明はあったのか。

都市建設課長　地域住民へは、平成14年より行政区、沿線住民地権者に案内を回覧・郵送にて周知し、説明会を開催しています。

さらに、各行政区長、町役職員、関係機関の代表者を委員とした「鏡石拡幅事業検討委員会」を、平成18年2月から3回開催し、内容をホームページ等で周知し、地域住民との合意形成を図ってきました。

質　問　国から町への説明は、各関係課と打ち合わせをし、施工合意に至っています。

都市建設課長　10月11日久来石転作センターで、安全講習会の説明会が開かれた。その際、設計ミスに第2回を開催して欲しい。

質　問　久来石区内の道路で、南から進入すると、5．9mに狭くなる所がある。4．9mに狭くなる所がある。大型車の交通規制又は改良はできないか。

都市建設課長　国土交通省、町、久来石・笠石区長他23名が出席し開催されました。多くの意見が出され、国も重く受け止めました。今後、改善についての説明会を検討していきます。

質　問　イノシシの出没の実態と被害状況は。また、捕獲したイノシシの処分方法、今後の被害対策はどうするのか。

産業課長　平成28年度、久来石地区7件、仁井田地区2件、境地区2件です。

今年度は、久来石地区5件、高久田地区6件、仁井田地区1件です。

被害は、根菜類の被害、土の掘り起し、畦畔の破壊等が確認されています。

処分は、狩猟免許所有者による「止め刺し」を行い、全量回収または、埋設処理します。

しかし、今年度の捕獲実績はありません。今後は、「町鳥獣被害防止計画」を策定し、わなを活用した捕獲をします。

都市建設課長　路線バス等の利用者もあり、交通規制は状況を確認し、交通安全について検討します。

4号拡幅が調査検討されているので、町道と4号線の接続とともに、町道の拡幅も合わせて検討していきます。

質　問　子ども育成会の発足の経緯と趣旨、会員数、主な事業は何か。また、中学生の入会方策は。

教育長　子どもたちの組織「子ども会」と、それを育成指導する「育成会」の連絡調整のため発足しました。平成29年の加入者は、929名です。主な事業は、夏の球技大会、廃品回収、花植え、バス旅行等です。中学生の入会対策は、大人、地域、家庭がかかわることだと考えます。

質　問　鳥見山陸上競技場内トラック（1・2レーン）の張替、北門・南門の改修は行えないのか。

町　長　全てのレーンの改修が必要であり、近隣の類似施設の調査をし、検討しています。

教育長　北門、南門は、大会運営等に支障がないよう、修繕等により対応します。

常任委員会事務調査

議会常任委員会の所管事務調査は、総務文教常任委員会（木原秀男委員長）が平成29年11月16日（木）・17日（金）に、産業厚生常任委員会（古川文雄委員長）が平成29年11月14日（火）・15日（水）にそれぞれ実施しました。

総務文教委員会

総務文教常任委員会の事務調査は、宮城県大崎市の「体育施設等の管理運営」と松島町の「防災センター設置及び管理運営」について視察調査を実施しました。



市民プールアクア・パルにて説明を受ける



石田沢防災センター内を視察

大崎市では、市民プール、アクア・パルの施設調査を実施しましたが、平成7年供用され、現在は指定管理者により管理運営されています。この温水プールは単独施設ではなく、スポーツジム等との複合施設となっており、一年中楽しむことができます。利用者は市民が9割で立地場所も市の中心地にあり、市民の憩いの場となっています。我が町も設置場所を含め複合事業に取り組む必要性を感じました。

松島町では、石田沢防災センターの施設調査を実施しましたが、広々とした駐車場を備えた木造平建てで一見して町の駅でありました。国の100％補助率の震災関連事業を活用しています。年間一千万円程度の維持管理経費や道の駅などへの目的外使用が今後の課題となっており、我が町の同施設設置に関し大いに参考となりました。

産業厚生委員会

産業厚生常任委員会の事務調査は、栃木県小山市のまちの駅「思季彩館」と埼玉県鳩山町の「地域包括ケアシステム」について視察調査を実施しました。

小山市まちの駅では小山市駅前に設置され地元産の商品や農作物の販売及び観光情報の案内所も兼ねており、中心市街地の活性化の拠点として運営されていました。年10回程度のイベントを開催し集客を図るなど、大いに参考になりました。



思季彩館での地元産品の販売



地域包括ケアセンターを視察

鳩山町の地域包括ケアシステムについては、現在の人口一万四千人、20年間で20％強の減少にあり高齢化率36．4％（埼玉県1位）に対し、介護認定率7．6％（埼玉県2位）とあり、週一回の健康づくりの催しには150～200名の参加人数があり、町民の健康に対する意識の高さが感じられました。施設については小学校跡地を利用活用し、特老・医療施設や通所介護施設を配備した複合型施設を同敷地に設置するという先を見据えた事業でした。

岩瀬地方議員協議会
語り部ボランティア。6次産業化研修

鏡石町と天栄村で構成する岩瀬地方町村議会議員協議会（天栄村・廣瀬和吉議長が会長）視察研修は11月8日（水）・9日（木）の2日間、宮城県の南三陸町と登米市において実施しました。

南三陸町では「震災を風化させないための語り部バス」、登米市では「6次産業化の取組み」について研修しました。特に、南三陸町でのボランティアガイドがバスに乗込み被災した施設等を廻りながら、写真パネルを使って当時の大津波浸水による壊滅的な被災状況の説明は、参加した全議員が実感できるものでした。



語り部から被災状況の説明を受ける